

小中高校向け情報教育の推進に向けたJISAの取り組み ～平成22年度小中高校向け情報教育懇談会の活動まとめ～

情報サービス産業協会 事務局

本稿では、平成22年度戦略広報委員会広報部会、及び同部会が設置した「小中高校向け情報教育懇談会」における小中高校向け情報教育の推進に向けた取り組みについて紹介する。

1 はじめに

JISAは平成22年度事業計画において、業界のあるべき姿を目指す中期的な課題として、ビジネスモデルの変革、業界構造の改革、顧客との関係の変革、国際競争力の強化を掲げた。これら改革への取組は、業界の英知を集め、グローバルに通用する産業構造を構築するとともに、社会に向けた情報発信を積極的に行い、学生や若者に情報サービス産業やITエンジニアの仕事をより魅力的に見てもらえるような“業界ブランド”の確立を目指すものであった。

そのような取組みの一環として、平成22年度戦略広報委員会広報部会は“業界ブランド”の確立に向けたさまざまな活動を行ってきた。その一つとして、特に当業界の役割や重要性に関する社会的理解を深めるためには、小学生や中学生など学校教育の現場において適切な教育・指導が行われることが不可欠との認識から、小中高校向けの情報教育で活用出来るような情報サービス産業やITエンジニアの仕事等に関する教育用コンテンツの検討、さらには委員各社を中心に小中高校生の受け入れを推進することの検討を行ってきた。

2 小中高校の受け入れ実態に関する調査

平成22年9月、戦略広報委員会広報部会は小中高校向け情報教育に対する会員企業の取り組みの現状を明らかにすることを目的に、JISA会員企業を対象に「小中高校の受け入れ実態に関する調査」を実施した。ここではその結果の概要を紹介する。

(1) 全体

○101社より回答があり、うち79社は受け入れを行っていないため調査票を提出しないとのことであった。22社からは調査票が寄せられたが、うち受け入れ実績がある企業は17社であった。

(2) 生徒の受け入れ

- 受け入れ実績がある企業は16社であった。
- 受け入れた学校の種類では中学校との回答が11社で最も多く、高校8社、小学校4社となっている。
- 受け入れ時の経緯については、直接学校からの依頼との回答が10社で最も多く、次いで教育委員会の依頼が5社、人脈(同窓会、PTA、取引先等)を介しての依頼が4社となっている。
- 受け入れ場所については、首都圏が11社、それ以外の地域が5社となっている。当業界企業の地域別分布状況からすると、地域の事例が相対的に多いと言える。

- 受け入れ部署については、総務・人事との回答が9社、広報・CSRとの回答が4社であった。
- 受け入れ担当者数は平均3.5人であった。
- 時期については、7-9月が8社で最も多く、夏休みに合わせて実施している企業が多いものと思われる。次いで多いのは10-12月の4社であった。
- 受け入れ時に実施したカリキュラム（複数回答可）は、「オリエンテーション」と「情報サービス産業及びその仕事の説明」が13社で最も多く、「会社及び受け入れ部署の説明」と「職場見学及び現場の人へのインタビュー」が9社で次いでいるが、他の選択肢も一定の回答が寄せられており、個々の企業ごとに比較的バラエティに富んだカリキュラムとなっている。

オリエンテーション	13
基本マナーの研修	5
情報サービス産業及びその仕事の説明	13
会社及び受け入れ部署の説明	9
職場見学及び現場の人へのインタビュー	9
仕事の実体験（仕事の手伝い）	7
仕事の疑似体験（ビジネスゲーム等）	6
レポート作成のためのIT学習（ワード、PowerPoint等）	4
発表資料作成	6
成果及び感想の発表会	7
その他	3

- 受け入れ時の教材はほとんどが自前で用意している。
- 受け入れ事例の特色や受け入れにあたって工夫したことがらについては、以下のような回答が寄せられた。わかりにくいITを職業経験のない生徒にいかに関心を持ってもらうか、きめ細かく配慮している様子が見えてくる。

- ・常に生徒目線で、プログラム構成から教材にいたるまで準備。システムから会社組織まで、あらゆる分野のプログラムを用意。
- ・接遇や説明は、若手の担当としている。
- ・ISMSの関係で、自社の研修会場を中心に実施。中学生、高校生の集中力を考慮し、実習・見学と講義に適宜に分散。
- ・依頼を受けている学校が工業高校ということで、生徒が所属している学科に合わせ仕事の実体験（作業内容を変えて対応している）。
- ・実際のシステムをデモ体験し、ITを身近に感じてもらった。
- ・普段の生活やアルバイトで行っている作業と、実際の仕事の業務の意識の違いを体感させる（荷物や手紙の送り方など）。あくまで教育の一環であるということを考え、働くことの楽しさと難しさを伝える。
- ・分かりにくいといわれるIT業界の仕事について、全てを説明しようとするのではなく、中学生、高校生にとっての「わかりやすさ」を重視したプログラム構成とした。
- ・「総合的学習」の一環で生徒本人の希望により受け入れたものであるが、業務内容や成果が分かりやすく、「楽しさ」が実感できるよう、協力を要請する事業部門の選定に工夫した。
- ・ICT企業の特徴を活かし、ネット教育やキャリア教育（職業教育）に力を入れた。
- ・分かり易い説明に努めた。
- ・PCを利用しての実演習。客先に導入しているシステムの紹介と体験。

- ・中学校でも活かせる内容を実施(学校ホームページ作成ができるように指導)。
- ・普通科の高校生であったため、専門用語は極力避けて平易な話題とキーワードを意識したうえで、お客様事例を活用して当社の業務内容を紹介した。(IT業界のイメージ作り)社会人と学生の違いを理解し、体験してもらうことに努めた。

○受け入れを実施して感じた課題については以下のような回答が寄せられた。「ICTそのものや業務内容をわかりやすく説明することの難しさ」「受け入れ体制の確立や準備の負担が大きいこと」「情報管理・セキュリティ面での制約があること」などが指摘されている。

- ・ソフト開発の楽しさを体験してもらうこと。
- ・会社の業務内容を生徒に理解されることが難しい。
- ・準備、実施におけるワークロードの確保(かなりのボリューム)、事前情報(受入れ生徒)の不足(準備期間が学校の夏休みと重なっていたため)。
- ・中学生が理解できるように弊社事業内容を噛み砕いて説明するよう留意しているが、なかなか難しい。
- ・カリキュラム、教材の準備に時間がかかるため、JISAなどで、標準カリキュラム例を示してほしい。
- ・職場体験を経験した生徒は、職場体験のレポート作成や発表会を学校で実施している。しかし、弊社はお客様からの機密情報を保管・管理している都合上、生徒が作業している職場の写真撮影を許可していないため、他の企業で職場体験した生徒と、レポートに差が生じてしまう。
- ・情報の取扱について。どの範囲まで社内外の情報を見せるができるか。
- ・システムエンジニアの工数が発生すること、社内の受入体制が確立していないこと、等。
- ・子どもたちの教育には、学校・家庭だけではなく、地域企業も含めた地域社会も可能な限り協力していくことが必要と思われる。
- ・生徒に興味をもってもらうようなイベントの実施。
- ・当社事業と社会との接点を説明すると、子供たちの反応が高く、次年度以降はこの点について充実を図りたい。また、参加希望者が増加傾向にあり、受入態勢の強化も検討課題。
- ・学校との連携体制。
- ・今年度初めて高校生のインターンシップを受入れたが、高校との連絡やカリキュラム作成などの受入準備に時間が掛かった。地域の複数校にて取りまとめのうえ実施する前提であったが、現地高校間の相互連携があまりなく、ばらばらの認識であった。

○今後の展望については以下のような回答が寄せられた。「社員が仕事や自分を見つめ直すきっかけになる」「社会や地域への貢献となる」などの積極的な捉え方がある一方で、「負担が大きい」「効果が不明確」などの消極的な意見もあり、受け止め方に幅がある

- ・直接的に企業活動に生きない(宣伝、就職など)、時間を取られる。
- ・社会的貢献の一環でもあり継続実施するが、生徒の理解度にも疑問があり積極的には行わない。
- ・職場体験の受入れが、社会貢献のひとつだけではなく、社員にとっても仕事や自分を見つめなおす有意義な機会となると思われるため、環境や体制が整う状況であれば今後も前向きに検討する。
- ・できれば地域の小中学校からも受け入れたい。
- ・検討中であるが、現段階では実施の予定はない。

- ・今後も地域貢献および人材の確保を目的として、継続実施していきます。
- ・特になし(現状維持)。
- ・特に主体的な取り組みは予定していないが、将来の人材育成に寄与するのであれば、協力したい。
- ・これからも積極的に受け入れていきたい。
- ・積極的に受け入れられる体制作りについて検討したい。
- ・コンテンツの充実を図りつつ、次年度以降も継続の予定。
- ・仕事の実体験や疑似体験を取り入れられるか。
- ・児童・生徒に興味の持てる会社イメージ(を作っていきたい)。
- ・本年度初めて受け入れたため、実施における効果と効用を再検討したうえで、決定したい(基本的には継続の意思はあります)。

○今後の意向については、「積極的に実施する」が3社、「依頼があれば実施する」が9社であった。また、「その他」と回答した6社も多くは一定条件を満たせば(受け入れ体制の整備、効果の明確化、対象の絞り込み等)実施したいとの回答を寄せており、概ね実施への意欲は高いと考えられる。

(3) 先生の受け入れ

- 受け入れ実績のある企業は4社で、生徒の受け入れ実績のある企業の数(16社)よりもかなり少ない。
- 受け入れた学校の種類は小中高いずれも同程度の実績がある。
- 受け入れ時の経緯については、教育委員会、全国団体、地域団体が挙げられている。
- 受け入れ場所は全て首都圏である。
- 受け入れ部署については、総務・人事と広報・CSRが挙げられている。
- 受け入れ担当者数は平均で2.5人。
- 時期については、7-9月に集中している。
- 受け入れ時に実施したカリキュラム(複数回答可)は、多くの選択肢に回答が寄せられており、多彩な内容のカリキュラムで受け入れが行われている。

オリエンテーション	4
基本マナーの研修	0
情報サービス産業及びその仕事の説明	4
会社及び受け入れ部署の説明	4
職場見学及び現場の人へのインタビュー	3
仕事の実体験(仕事の手伝い)	1
仕事の疑似体験(ビジネスゲーム等)	3
レポート作成のためのIT学習(ワード、PowerPoint等)	0
発表資料作成	4
成果及び感想の発表会	4
その他	3

- 受け入れ時の教材については、既存・市販との回答が2社あり、自前で用意との回答がほとんどだった生徒受け入れとはやや異なった結果となっている。
- 受け入れを実施して感じた課題については以下のような回答が寄せられた。わかりにくいITをいかに理解してもらうかという点は生徒の受け入れと同様であるが、「社会人」として参考になるよう社員研修に参加させる事例も見受けられる。

- ・生徒の受入と同様、“分かりにくい”といわれるIT業界の仕事について、全てを説明しようとするのではなく、“わかりやすさ”を重視したプログラム構成とした。
- ・短期間でもあり、業務体験型ではなくIT企業を理解いただく内容で実施。
- ・当社データセンター見学、IT企業におけるコンプライアンスへの取組紹介および幹部社員研修にオブザーバー参加を実施。
- ・ICT企業の特徴を活かし、ネット教育やキャリア教育（職業教育）に力を入れた。
- ・教員10年目の方々が対象であったため、業界理解のほかにリーダーシップやチームマネジメントに関する社内研修を御紹介、体験していただき、ご自身の部下指導の参考にいただいた。また、データセンター見学を行い、当社事業と社会とのつながりを実感していただいた。

○受け入れを実施して感じた課題については、時間的な制約、意識やモチベーションアップの難しさについての指摘があった。

- ・短期間でもあり、具体的な成果につながる実習プログラムの提供が難しい。
- ・実習者の意識向上、モチベーションアップまでつなげることは難しい。
- ・先生方の教育には、教育委員会・学校だけではなく、地域企業も含めた地域社会も可能な限り協力していくことが必要と思われる。

○今後の展望については、積極的に受け入れていきたいとの声がある一方で、学校側の意識向上を期待する意見もある。

- ・派遣元（学校側）における実習生に対する「明確な動機付け」と「目的意識の明確化」を期待。
- ・これからも積極的に受け入れていきたい。
- ・御参加いただいた方からはかなり好評を頂いたため、更なる改善を行い、次年度実施としたい。

○今後の意向については、「積極的に実施する」が2社、「依頼があれば実施する」が5社であり、生徒の受け入れほどには実施への意欲は高くはない。

(4) 業界としての対応・その他

○小中高校の受け入れについて業界としてどのように対応すべきかについては下記のような回答が寄せられた。IT業界（情報システムの役割や仕事の内容等）について若年層を啓発することの必要性自体については概ねコンセンサスがあると思われる。取り組みの意義については、将来の人材育成・確保を挙げる回答が比較的多い。

- ・ユーザー様、メーカー様に推進頂くことが望ましいと考えます。
- ・生徒の職業観を醸成して将来優秀な人材を確保するためには取組むべきではあるが、大学生等のインターンシップとは異なり効果には疑問がある。社会貢献活動としては必要な活動である。
- ・将来を担う若い人たちへ早い段階からの啓蒙は必要であり、業界全体で推進していくべき。
- ・中学時代に職業観を養うのは大事かと。業界としてもできるだけ受入れの門戸を広げるべき。
- ・受け入れにあたってのポイント、メッセージを業界内で統一し、取り組んでゆくべきと考える。

- ・社員の家族も業務の内容を説明できないことが多く、積極的に業務の実態を公開し、3Kといわれる部分について理解を得る努力をすべき。
- ・若年層に対して受け入れを対応していくことは、業界の発展に繋がると考えます。受け入れを体験した学生が業界に対して興味を持ってもらい、優秀な人材の確保に有効な方法であると考えます。
- ・IT業界への理解を深め、将来の職業感形成に役立つよう、積極的に受け入れることが望ましい。
- ・情報サービス業界は、小中高校にとってはなかなか馴染みのない業界なので、多くの企業が職場体験を通してアピールしていくのも良いのでは。
- ・IT企業の多くは企業向けシステムの開発・提供を行っており、児童や生徒を受入れるための学習プログラムを企業単位で構築・実施するのは難しいと考える。
- ・将来の人材育成、わが国のITサービス産業発展のために、業界でもっと積極的に取り組むべきである。
- ・どんどん積極的に進めていくべき。将来のICT人材(理科系人材等を含めて)育成の布石を打つ意味合いもあり。
- ・業界を挙げて積極的に取り組むべきである。
- ・小中高校の生徒が当業界に興味を持てるような説明や解説を分かり易く行う。
- ・生徒への進路指導を前提とした業界理解と言う意味で小学校、中学校は少し焦点がずれる気がする。
- ・当社が実施したような研修御紹介であれば、教員のみを対象にする必要は無いと思われる。
- ・IT業界の業務については、あまり知られていないと感じます。どうしても、一般消費者的な立場でCMや商品のイメージから企業を捉える傾向が強いので、まずは業種業界の認知度を上げることが大切であると考えます。

○小中高校の受け入れについてJISAへ期待することとしては、「(標準)カリキュラム、教材の提供」「他団体との連携」「関係者(学校、業界、ユーザ等)の橋渡し・コーディネート」「受け入れの主體的推進・プロデュース」「情報発信」などが挙げられている。

- ・どこの会社でも活用できるような、仕事の疑似体験ができるカリキュラムの提供をお願いしたい。
- ・若年層に対する人材育成・啓蒙に対しては、JEITA(社団法人 電子情報技術産業協会)の取り組みが進んでいます。JISAがまた一から始めるのではなく、団体の垣根を越えて、取り組まれてはいかがでしょうか。
- ・小中学校と受入れ企業の橋渡し役。
- ・学校側のニーズと業界の取り組みテーマの集約。受け入れ企業側と学校側の選定等。
- ・カリキュラム作成など試行錯誤で行っていることも多く、標準カリキュラム例など何パターンか公開してもらえると助かります。
- ・上記同様、業界として受け入れを促す情報発信を期待します。
- ・JISAにおいて公開授業プログラム(もしくは出前授業)をプロデュースすることを期待する。
- ・JISAにて授業内容・場所(設備)の確保・受講者募集等を行い、会員企業が講師を派遣するようなことができる良いのではないかと考える。
- ・上記主旨に沿って、業界をリードする取り組みをお願いしたい。
- ・教育委員会や各学校と連携して、学校(生徒および先生)受け入れプログラムの開発・運用を進めていく。

- ・もっと積極的に窓口を担って頂きたい。
- ・当業界に興味を持つような冊子などの作成。
- ・業界イメージのPR活動。
- ・学校側の要望は、社会科見学の延長的なカリキュラムに近いと思われます。生産設備や組立て現場等がないIT業界としては、見学等での目新しさが無いのが実情です。例えば、システムが稼動している現場（企業から見るとユーザー側）への協力をJISA（業界）として後押ししていただくと良いのではないのでしょうか。

○その他の意見としては、業務の特性などから受け入れの難しさを挙げる声が寄せられている。

- ・弊社のように御客様先へのオンサイト業務が中心の場合、受け入れに関しては厳しいかと思いますが、受け入れ可能な企業が増えれば業界に対する意識も変わってくるかと思います。
- ・ソフトウェア製作は知的労働のため、小中学生の社会科見学にはそぐわないと考えられる。どのような仕事かの見学ならばIPA等の団体などで一般的な開発の推進方法或いは体制などを紹介する事が良いと考えます。

3 小中高校向け情報教育懇談会の活動

前項の調査結果を受け、今後の小中高校向け情報教育の推進に向けた取り組みについて戦略広報委員会広報部会で検討した結果、受け入れ事例の発表や教材・カリキュラムに関する情報共有などを目的に「小中高校向け情報教育懇談会」を設置することとなり、12月にメンバーを募集し活動を行うこととなった。

懇談会は1月から計3回開催され、メンバー計9社の事例発表を中心に活発な活動が行われた。以下では事例発表の内容から明らかになった小中高校の受け入れにおける具体的な取り組み内容（カリキュラムや狙い）を整理した。

(1) 生徒の受け入れのカリキュラム

○座学

ITや情報サービス業界自体などに関する一般的な知識の説明と、自社の事業内容や業務の説明に大別される。わかりづらいITを理解してもらうため、比較的イメージしやすい仕事（医者や大工など）とのアナロジーで説明するなど、各社ともさまざまな工夫をこらしている様子が見て取れる。

- ・情報サービス業とは（コンピュータ関係・IT関係の仕事とは、24時間365日生活やビジネスの基盤を支えていること、プログラミングは仕事のほんの一部であること等を説明）
- ・ITが社会経済になくてはならないものとして機能していることを理解してもらう
- ・IT業界の説明
- ・職業講話
- ・環境出前授業

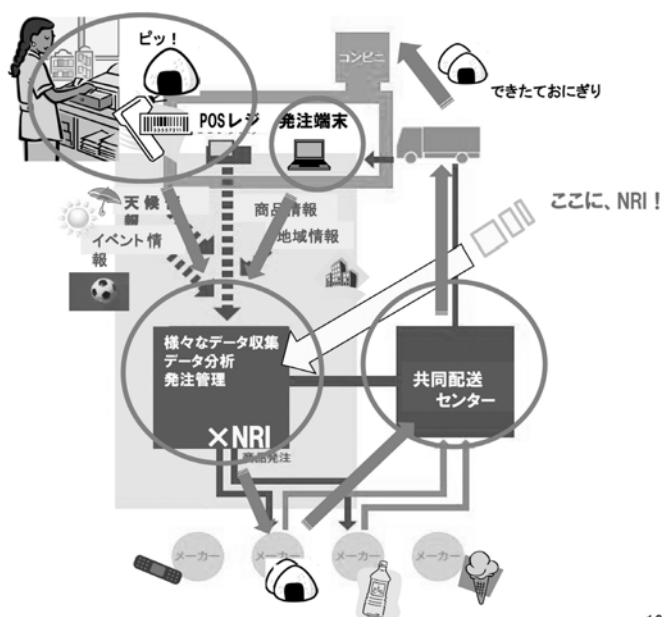
- ・e-ネットキャラバン（インターネットの安心・安全利用に関する啓発）・自社はどんな仕事をしている会社か
- ・自社が一体何をしている会社なのかを「社会を便利にするしくみをITで作っている会社」と説明
- ・自社事業の説明
- ・企業訪問受入（自社の社会貢献活動、ITと社会との関わり、自社で働くということ等）
- ・コンサルタントの仕事を説明→会社、自治体が抱える課題を診断し、解決のお手伝いをするお医者さん
- ・システムエンジニアの仕事→情報システムを作って社会がスムーズに動くようお手伝いする建築士、大工さん→家を建てるプロセスと情報システム開発プロセスの対比
- ・情報システムとは→コンビニにいつも「出来たてのおにぎり」があるのはなぜ？（在庫管理、商品開発）
- ・仕事の厳しさ、楽しさ、魅力を伝える

図表1 【懇談会での発表事例】

出前授業（(株)野村総合研究所）

4-4.私の仕事 情報システムとは

- コンビニにいつでも
「出来たてのおにぎり」が
あるのは、なぜ？
↓
- 情報システムが支えています。
1日24時間、365日休まず
稼働しています。
↓
- 商品の在庫管理だけでなく、
きめ細かな商品開発なども
実現



NRI Copyright(C) 2011 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

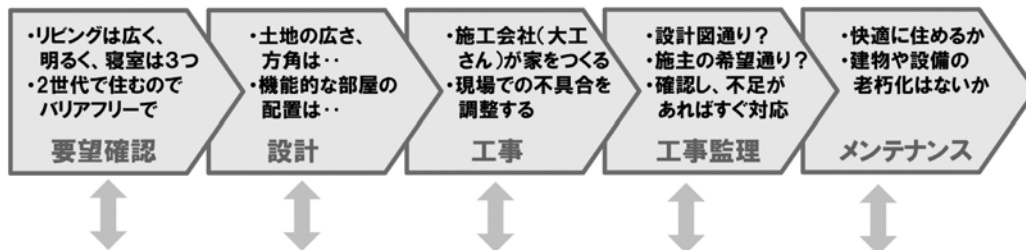
16

4-4.私の仕事

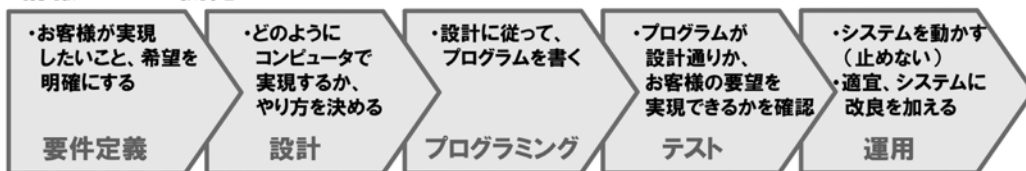
SE(システムエンジニア)の仕事とは

●SEの仕事(情報システム開発)は、建築士や大工さんの仕事に似ています

家を建てる時のプロセス



情報システム開発のプロセス



NRI Copyright(C) 2011 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

17

○見学、体験、実習

体験・実習は、業務・就労体験的なものと、それ以外のもの(ゲーム、遊びの要素のあるものなど)に分けられる。前者については、社会人としての仕事を体験すること自体が小中高校生には未知のことであり新鮮に感じる人が多いようである。後者については、楽しみながら情報サービスの仕事の面白さを感じ取ってもらうことを狙いとしている。

- ・オフィス見学
- ・社内見学(オフィス、社員食堂、売店、ヘルスケアセンタ等)
- ・ショールーム見学
- ・職場見学
- ・ロボット体験教室
- ・パソコン教室(案内状作成)
- ・ショールームを使った体験学習(IT基礎知識、ECサイト、ICカードとセキュリティ、お絵かき教室、ネット上テーマパーク体験、新技術デモ体験等)
- ・ITカード作成
- ・就労体験(郵便物仕分け、社内売店等)
- ・システム企画・提案体験
- ・基本マナー研修
- ・業務手伝い(パンフレット封入、データ入力、ポスター作り、給与明細封入等)

図表2 【懇談会での発表事例】

中学生職場体験（NTTデータ（株））

＜中学生向け＞中学生職場体験(1/4)

中学生向け

中学生職場体験

1998年より、江東区内の中学校の職場体験学習の受け入れを実施。中学生の勤労観育成を支援するとともに、システムの企画・提案体験などを通じて、事業内容の理解や、社会におけるITの役割を認識してもらう。



2010年の実施内容

■実施日程：

- ① 2010年10月5日～7日
江東区立深川第五中学校 二年生3名
- ② 2010年11月26日～27日
江東区立深川第一中学校 二年生3名

■主なプログラム

- ・ショールーム見学、社内見学
- ・就労体験（郵便物の仕分け、社内売店等）
- ・NTTデータの事業内容説明
- ・若手社員との意見交換
- ・システムの企画・提案体験

Copyright © 2010 NTT DATA CORPORATION

10

＜中学生向け＞中学生職場体験(3/4)

中学生職場体験 プログラム内容(一部)

①会社概要説明

業務内容がほとんど知られていないことを前提に、NTTデータが一体何をしている会社なのかを、「社会を便利にする“しくみ”をITで作っている会社です」というフレーズで説明。見えないけれど、ITの“しくみ”が皆さんの生活を支えていることを説明し、会社の存在に親近感をもってもらうことが目的。

②社員との意見交換

社内で公募した若手社員数名と、仕事の内容、仕事のやりがいと大変さ、学生と社会人との違いなどについて対話を行い、NTTデータで働く社員に対する具体的なイメージをもってもらおう。

③ICカードを活用した新しいシステムの企画・提案

IT技術の例としてICカードを紹介し、ICカードを使った、「新しい便利」を想像し、システムの提案として社員の前でプレゼンテーションを行ってもらおうプログラム。

システム構築の上流工程のプロセスを体験し、仕事内容を一部を理解してもらうと同時に、自分で考えた「こうなったら便利だな」という夢のようなアイデアの多くがITで実現できるかもしれないということに気づいてもらい、ITの持つ力や可能性に魅力を感じてもらうことが狙い。



Copyright © 2010 NTT DATA CORPORATION

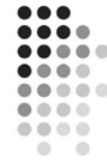
12

122

jisa quarterly no.103 2011 autumn

ロボット体験教室（アイエックス・ナレッジ(株)）

■「子どもたちにモノづくりとITの楽しさに触れてもらう」がテーマ。2月に社員の子供対象にトライアル実施したあと、5月、8月には東京・世田谷区内の小学校で開催しました。



2011年2月19日

ロボット体験教室 アンケート（お子様のみ）



(1) 学年は？
☒ 小学 ☐ 中学

(2) ロボット体験教室は楽し！
 3つの中からひとつだけえ
☒ ① とても楽しかった

(3) ロボットやプログラムのあ
 3つの中からひとつだけえ
☒ ① とてもわかりやすかった

(4) このようなロボット体験
 3つの中からひとつだけえらんでください。
☒ ① 参加したい

(5) ロボット体験教室に参加し
 にしてほしい、なんでも自由
 ロボットのおもしろ
 このロボットがほしい。

ロボットのおもしろさを矢口で知っていた、
 このロボットがほしい。

ロボットを早くこころえ方をいろいろ考えられました。
 説明もわかりやすくおしえてくれて、とてもうれしかったです。
 本当にありがとうございました。

まけたのかくや
 かった。

各会プログラム 超より、英語数字を使ってプログラムした方が、
 正しいと学んだと思えました。

もっと図がわかりやすかったらいい
 と思う。

いになれそうだったけど
 (1点)

2いになていなくなった人が多かった。
 (2点)

これ、レスポンスになれなかったけど、いこうと見この
 の車がふくむつにうごくとだと思ひて、くりか
 人に

はあわりです
 あいあとうございまして。

講座内容について

- ・私の会社と仕事について
 - ー情報サービス業とは
 - ーどんな仕事をしている会社なの？
 - ーコンピュータ関連の仕事とかIT関係の仕事と言われて想像されるのは
 - ー24時間・365日、生活やビジネスの基盤を支えています。
 - ープログラミングはほんの仕事の一部

Copyright© 2011, INES Corporation

7

〔 ニュースヘッドライン 〕

アイネスの社会貢献活動 ～つづき博士倶楽部～

横浜市立茅ヶ崎中学校にて「パソコン教室」開催！

(研修センター/えこー編集部)

2011/2/21

2月14日(月)、横浜市立茅ヶ崎中学校で、つづき博士倶楽部の地域交流特別講座が行われ、当社は研修センターの山崎さんが講師役となって、毎年恒例となった「パソコン教室」を開催しました。

「つづき博士倶楽部」は、学校と地域が連携して教育を推進していこうという横浜市の教育理念に賛同した企業や団体が、その専門分野を活かして小中学生のために出前講座を行っている活動です。当社は社会貢献活動の一環として、平成17年度より参加しています。

当日は、当社を含め23の企業・団体が講座を開きました。東京電力の仕事体験や弁護士の仕事について学ぶもの、フラダンスの講習やアイドルグループ“嵐”のヘアスタイルのカットに挑戦するものなど、さまざまな講座が用意され、講師の控え室にはいろいろな教材を持った講師役の方々が集合しました。

講座の前に行われたガイダンスでは、谷口校長先生から「今日の特別講座は、キャリア教育の一環として位置付けています。生徒たちが、人生を豊かにすることや将来のことを考えるきっかけとなるよう、仕事との関わりについてもぜひお話しください」とご挨拶がありました。

パソコン教室には、23人の1・2年生の生徒さんが参加しました。当社の仕事についての説明に続いて、「ディズニーランドに行こう!」という案内状作成の実技を行いました。作業が進んでいくと、生徒さんの間でも進み具合がバラバラになり、挙手して質問する姿や生徒同士で相談し合う姿が見られました。予定時間をオーバーしてしまいましたが、全員の案内状が無事に完成しました。

今回の講座をきっかけに、多くの生徒さんにIT業界に興味を持ってもらいたいと思います。



ガイダンスの様子



意欲的に取り組まれていました

※つづき博士倶楽部のHP

<http://www.city.yokohama.lg.jp/tsuzuki/kusei/kikaku/hakase-index.html>

※茅ヶ崎中学校より許可をいただいた上で写真を掲載しています。

中学生の感想（抜粋）

・ 勤労観

- － 挨拶ひとつにも色々ルールがあることに驚いた。
- － はじめは毎日仕事するのは辛いと思ったけれど、集中しているとあっという間に5日間が終わった。

・ 職業観

- － SEIはパソコンにずっと向かっている仕事かと思ったけど、色々な人と話をしないといけない。
- － どんな仕事も約束を守ることや、時間を守るという当たり前のことが大事なんだと思いました
- － どんな仕事でも仕事をする人のやる気と心構えが重要

NSW

15

職場体験の様子



NSW

14

○ディスカッション、交流・インタビュー、発表

生徒側は主体的な取り組みが必要であり、受け入れ側の準備（テーマ設定、インタビューや意見交換に対応する社員のアサイン等）や運営の負担も大きいですが、成功すれば生徒側の達成感は大きく、また社員側も自らの業務を再認識できる等の効果がある。

- ・ICカード活用法に関するブレインストーミング、プレゼンテーション
- ・若手社員と仕事の内容、やりがいと大変さ、学生と社会人の違いなどについて意見交換
- ・社員へのインタビュー（インタビュー技法取得も含む）
- ・IT関連テーマで課題を与えて調査・提案・プレゼンしてもらう
- ・社員インタビュー結果発表（プレゼン練習も含む）

図表3 【懇談会での発表事例】

「ITで環境を守る」との課題で生徒がプレゼン（伊藤忠テクノソリューションズ(株)）

受け入れ事例

CTC

③課題の提供(続き)

ヒント...

例えば、コンビニの場合

- ①物流の効率化 ⇒ 排気ガスの削減
- ②的確な仕入れ ⇒ ゴミの削減

につながります。

これらはすでに対応が進んでいますが、現在の仕組みにこだわらず、斬新なアイデアを期待します。

普段何気なく生活している中で、少しだけ意識して世の中を観察してみることで、今まで気がつかなかったことが見えてくるはずです。



Copyright (c)2011 ITOCHU Techno-Solutions Corporation

15

受け入れ事例

CTC

②プレゼンテーションに対するアドバイス



後日行われるクラスでの発表に向けて、さらに素晴らしいプレゼンテーションとなるよう、資料の構成、説明の仕方などさまざまなアドバイスを行ないました。



Copyright (c)2011 ITOCHU Techno-Solutions Corporation

19

(2) 教職員の受け入れのカリキュラム

情報サービス企業の業務や情報システムの役割等に関するものについては生徒向けのカリキュラムと共通する点が多いが、それ以外に社会人としての教職員の研修という側面から、人事管理や業務改善などに関するものも含まれる。

○座学

- ・ITが社会経済になくてはならないものとして機能していることを理解してもらう
- ・JISAのDVD「情報サービス新時代」を見せる
- ・環境問題講座
- ・eネット安心講座
- ・IT業界の概況
- ・自社が一体何をしている会社なのかを「社会を便利にするしくみをITで作っている会社」と説明
- ・コンサルタントの仕事を説明→会社、自治体が抱える課題を診断し、解決のお手伝いをするお医者さん
- ・システムエンジニアの仕事→情報システムを作って社会がスムーズに動くようお手伝いする建築士、大工さん→家を建てるプロセスと情報システム開発プロセスの対比
- ・情報システムとは→コンビニにいつも「出来たてのおにぎり」があるのはなぜ？（在庫管理、商品開発）
- ・仕事の厳しさ、楽しさ、魅力を伝える
- ・紙をなくす全社業務改善活動の紹介
- ・自社の概況
- ・自社の制度や仕組み・取り組み（情報セキュリティ、リスクマネジメント、KAIZEN、CS活動、人事・教育制度、情報交換）

○見学、体験、実習

- ・社内見学(オフィス、社員食堂、売店、ヘルスケアセンタ等)
- ・ショールーム見学
- ・データセンター見学
- ・幹部社員候補者研修見学
- ・アウトソーシングセンター見学
- ・若手人材育成研修の体験(部下の指導やキャリアアップ、モチベーションコントロール等)
- ・SE疑似体験プログラム(仕事内容、問題解決の際の思考力、メンバーとのコミュニケーション、情報伝達の仕方等)
- ・学校向けシステムの営業(企画・提案)体験
- ・PAC研修(紙コップを制作・販売する会社を題材に会社の仕組みを理解する研修)

図表4 【懇談会での発表事例】

幹部社員候補者研修 見学(富士通エフ・アイ・ピー(株))

研修カリキュラム

	8:40	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1日目	オリエンテーション	当社および研修について	情報セキュリティ	リスクマネジメント	KAIZEN	休憩	CS活動	人事/教育制度	当社社員との情報交換会	
2日目	幹部社員研修 見学					休憩	幹部社員研修 見学			
3日目	オリエンテーション	アウトソーシングセンター見学	移動		休憩	成果発表会 資料作成 (パワーポイント)		成果発表会	オリエンテーション	

<狙い>

民間企業がお客様にサービスを提供するために必要となる人・物・金について理解し、今後の職場（学校）運営に取り組む際の糧にする。

- 1日目：民間企業の会社の制度や仕組み・取り組みを理解する。
- 2日目：民間企業の幹部社員に求められる意識、知識、スキルを理解する。
- 3日目：民間企業のビジネス（お客様へのサービス）の現場を理解する。

4

Copyright 2011 FUJITSU FIP CORPORATION

2日目 幹部社員候補者研修 見学										
	8:40	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
2日目	幹部社員候補者 マネジメント研修 見学				休憩	幹部社員候補者 マネジメント研修 見学				

<ねらい>
 民間企業の幹部社員に求められる意識、知識、スキルを理解する。

【研修カリキュラム】
 (1) 幹部社員の立場と役割
 (2) 課題構築・課題解決
 (3) コーチング・傾聴
 (4) 役員プレゼンテーション



SE疑似体験プログラム (ITホールディングス(株))

**2日目 午前****SE疑似体験プログラム**

本プログラムでは、運用中のシステムにトラブルが発生したことを仮定し、どのようにして、トラブルを解決していくのかを体験いただきました。

このプログラムは、営業、開発、運用の3チームが

- ① 自分達が持っている情報を整理し
- ② 他チームとの連携を行い
- ③ トラブルの原因を検討

SEの仕事を理解するだけでなく、問題解決時の思考力や、関係メンバーとのコミュニケーション、情報伝達方法などの重要性について体験いただきました。

3. 教員の民間企業研修



3. 教員の民間企業研修



○ディスカッション、交流

- ・ITを活用した「理想の学校」企画
- ・10年目の社員との意見交換

(3) 情報サービス企業が小中高校受け入れに期待する効果

「業界の仕事や意義に対する社会の認知度向上」「社会貢献、地域貢献」「社員の自らの仕事に対する再認識」「自社のPR」など、さまざまな効果があると指摘されている。

- ・子供たちに「ものづくりの楽しさ」を元気なシニアの手で伝える。
- ・自社及び業界のレピュテーション向上（企業活動についての理解向上）
- ・社会貢献（社会・地域・業界に対する貢献）
- ・地域貢献（地元の次世代を担う子供たちの育成）
- ・若手社員の勤労観／職業観の醸成（これまでの職務経歴の棚卸、インタビューを通じて、自分のキャリアを考える）
- ・中学生に地元企業に親しんでもらう。
- ・高専生徒に会社紹介によるアピール。
- ・社会への企業貢献活動のひとつ。
- ・情報サービス産業界やシステム開発やSEの仕事について、理解を深めてもらえる。
- ・PCでプログラミングだけをするのがSEの仕事だという誤解や、情報工学専攻など理系出身の学生しか就職できないのではという誤解を訂正することができる。
- ・自社の仕事を簡潔にわかりやすく説明する機会
- ・自らの仕事の社会的価値に気づく機会（仕事への誇りの醸成）
- ・直接的な社会貢献の機会
- ・今や社会になくてはならないITを支える企業と人が、どのような考え方取り組みをしているかについて理解を深めてもらう。
- ・この体験を子どもたちの教育や学校運営に活かしてもらう
- ・ITは暮らしに深く浸透し、あらゆる社会の仕組みがITで支えられていることを体感し学んでもらい、学校教育に活用してもらう。
- ・企業としての社会貢献、環境推進、災害対策、教育支援などのCSRへの取り組みを知ってもらい、子どもたちにそうした活動の大切さ・重要性を伝えてもらう
- ・自社の企業理念に基づく事業活動や社会提言活動などを理解してもらう
- ・事業や調査・研究で培った知識やノウハウを学校教育の中で活用してもらう

(4) 学校側が受け入れに期待する効果

職業教育、社会教育的な観点での効果が期待されている。

- ・生徒に望ましい職業観・勤労感を醸成
- ・新たな自分を発見させ、これからの生き方について考えさせる
- ・コミュニケーション能力、礼儀作法を身につけさせ、人間関係の大切さを体得させる
- ・当産業やSEという職種を知る機会が得られる
- ・中長期的な視点から進路について考える機会が得られる
- ・学習意欲向上の機会が得られる
- ・民間企業の組織的な経営や活動を研修することにより、資質、能力の向上を図り、学校教育の改善・充実に活かす。

5 おわりに

平成22年度の戦略広報委員会広報部会及び小中高校向け情報教育懇談会の活動を通じて、小中高校向け情報教育に対する会員企業の取り組み状況について知見が得られ、情報サービス産業の地位向上と業界ブランドの確立に対して一定の効果が得られる可能性が高いことも明らかになった。

一方、これまでは取り組んでいる会員企業数はまだ限定的であり、しかも横のつながりがあまりなかったと言える。また、特に生徒の受け入れにおいては、ほとんどの企業が教材を自前で用意するなど多大な努力を払っており、大きな負担になっている実態も明らかになった。

小中高校向け情報教育の取り組みをより一層拡大していくためには、会員各社の力を結集し、業界挙げての取り組みを行っていく必要がある。取り組んでいる企業の連携、各社が共通で使える業界標準教材・カリキュラムの策定などにより負担を軽減することができれば、より多くの企業が取り組むことが期待できる。

平成23年度広報・人材委員会広報部会は、小中高校向け情報教育懇談会の成果を活かし、当業界の認知度向上に向けた小中高校向け情報教育の取り組みを深化させていく予定である。